

彼らのパソコンは、ピストルと同じ

「新型の弱者」の暴力を許してはならない

暗闇でパソコンに向かって毒をまき散らす――。
「匿名」に身を隠し、小さな穴からこつこつそり世の中を覗き、
冷笑的視線で、社会を揺さぶったつもりでいる「弱者」。
こつこつした「暴力」を許してはならない。

哲学者

中島義道

●なかじま・よしみち 1946年福岡県生まれ。「哲学塾・カント」主宰。専門は時間論・自我論・コミュニケーション論。『うるさい日本の私』『醜い日本の私』『ひとをく嫌う』ということ』『孤独な少年の部屋』など多くの著書がある。

卑劣の結晶体

インターネットの匿名掲示板で幼稚な他人攻撃を繰り返している一群の若者たちがいます。

気位は高く、自尊心だけは異常にあるが、何をしてもうまくいかず、諦め、社会を憎悪している。そうでなくとも、安全な位置にいて思う存

分他人を傷つけられる快楽に耽っている。そうした若者たちです。匿名掲示板には、「死ぬ」「バカ」などの誹謗中傷が多く書き込まれ、その罵詈雑言が発する臭気は、思わず鼻をつまみたくなるほどです。

表舞台に立つ人を、匿名のポジションから嘲笑している彼らは、そのような行為を恥じていると断言できません。卑劣な行為だと知っているか

つけることも、きちんとしたコミュニケーションのためには、必要なこと

とです。しかし、それは匿名でないことが絶対条件です。相手が面前にいれば、仮に相手が反発したとしても、そこに対話の糸口が見つかる。互いに納得したり、あるいは破綻したりするかもしれませんが、違ったり考えや感受性を持つ人と徹底的に議論を重ねることが大切なのであり、それが健全なコミュニケーションと呼ぶにふさわしいものなのです。

しかし、こういう若者たちは、健全なコミュニケーションを望んではいない。相手と対等な条件のもとだと、負けてしまうから、自分に危険が及び、袋だたきに遭うかもしれないからです。だから弱いのだが負けたくない彼らは、正々堂々と戦うことを拒否し、身を隠して安全なところで遠吠えするだけ。まさに「卑劣

の結晶体」です。

私はこのような若者を「新型の弱者」と呼んでいます。そしていま「新型の弱者」は日本社会に数百万の規模で発生しているように思えます。その生息を説明する前に、「弱者」とは何か、「旧来の弱者」とは何が異なるのか、少しばかり話しましょう。

弱いがゆえに正しいと思ひ込む

こうした「新型の弱者」のみならず、一般に「弱者」は自分の弱さを正当化します。自分の無知、無能力、不器用、不手際、魅力のなさに気づいているのですが、そのことをちょっとでも指摘する人がいると、とたんに相手を傲慢、非見識などと罵り、決して許さず、徹底的に責め立てるのです。

目下このような弱者が急速に増大している――日本の社会を見渡すと、そう思わざるをえないのです。

とりわけ、最近、目立つのが、「何の実績にも基づかない、強烈な自尊心を持つ弱者」です。

社会的な評価を上げたいのに、そのための努力は何もしない。あるいは、わずかな努力が報われないとあっさり諦めてしまう。にもかかわらず、自責の念を持たない。なぜなら自分への評価は「私が悪いのではなく、遺伝子のせいであり、劣悪な生活環境のせいであり、不運のせいである」と結論づけるからです。

だが彼らは、このような結論が、自分への評価に反映されないことも理解しています。また、そう主張するのが無駄であることも知っています。

だから彼らは「自分がなかなか報